

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県奥越地区におけるマダニ分布調査-1991年と2011年の比較
発表研究会名	第30回北陸病害動物研究会
発表者名	石畝 史（保健衛生部）
開催場所	坂井市三国文化未来館
開催日時	平成24年6月30日（土）
発表内容	<p>福井県内のマダニ類の分布状況については、1991年に14地点において調査を行い、北方系と南方系のマダニ類が交錯して生息することが確認された。そこで、20年後にあたる2011年に取立山および法恩寺山で以下の3種類のマダニ類に注目して調査し、分布相の変動を調べた。</p> <p>1. マダニ類の採集状況</p> <p>1) シュルツェマダニ 本種は福井県では標高1,000m以上でないと採取できない北方系のマダニで、ライム病の病原体を媒介する。取立山および法恩寺山では1991年および2011年ともに1,200m以上の山頂付近で採集でき、温暖化の大きな影響は確認されなかった。</p> <p>2) タイワンカクマダニ 本種は南方系のマダニで、西日本に分布する個体では日本紅斑熱の病原体 (<i>Rickettsia japonica</i>) を保有する。取立山および法恩寺山では1991年および2011年ともに採集されず、温暖化の影響は確認されなかった。</p> <p>3) ヒトツトゲマダニ 本種は紅斑熱群リケッチアの病原体を媒介する。取立山および法恩寺山では1991年に確認されなかったが、2011年に取立山で採取された。このマダニはカモシカやシカに寄生することが多いことから、分布は温暖化の影響よりもシカの生息域と密接な関係があるかとも思われる。</p> <p>2. 紅斑熱群リケッチアの検出状況</p> <p>4種類のマダニから紅斑熱群リケッチアの分離を試みた結果、ヤマトチマダニから <i>R. japonica</i> と同じクラスターに位置する近縁種の Genotype が、国内で初めて生菌分離できた。</p>